

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200180		
法人名	医療法人 土生医院		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	大分県豊後大野市三重町内田六反2541番地		
自己評価作成日	令和5年9月10日	評価結果市町村受理日	令和6年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体が医療法人なので日常生活や緊急時の対応がスムーズにできている。また毎食、対面式のキッチンで調理をすることで家庭的な雰囲気であり、個々に合わせた食事形態で提供することも工夫している。立地面では緑も多く外を見る楽しみの他、中学校の通学路に面して居ることで外出制限はあるが通学途中の生徒の会話が聞こえてきたり、制服等で季節の移ろいを感じることもできる。基本的な時間の流れは決まっているがその日の利用者の体調にあわせた関わり方をすることで、一人一人がゆっくりと過ごすことが出来ている。口腔体操やレクリエーションでは職員が工夫をし、ゲームを行ったり、利用者個人の得意なことや、自宅ですていた作業をしてもらうことで生活リハにも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 理念を全員で新たに作成し、実践につなげている。
- 2) 職員教育、研修など勤務扱いで手当を支給し、職員の質の向上につながっている(今年度、進学した職員もいる)。
- 3) 事業所内で毎食、食事、おやつ作りを行っており、調理の音や匂いで五感を刺激されるとともに家庭的な雰囲気がある。
- 4) 在籍年数の長い職員が多く、職員同士のコミュニケーションが取れている。
- 5) 母体が医療機関なので、日常の体調管理から終末期の看取りまで連携が取れており、利用者及び家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内にグループホームはもう1施設あるが、独自にそれぞれが理念を作成している。ホーム内に掲示し、日々のケアにつながるよう取り組んでいる。	理念は2年前に新しく作成し、事務室や共有スペースに掲示している。利用者の気持ちに寄り添い、個々とゆっくり向き合い会話をする中で得た情報は職員間で共有している。申し送り時に理念の再確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響でここ数年間は地域とのつながりが出来ていないが自治会に入会し市報配布があることで入居者が住み慣れた場所の情報を得ることが出来ている。家人面会は、窓越しの面会を続けている。施設内へ立ち入るときには検温、手指消毒を行いマスク着用してもらっている。	保育園から週2回の訪問と看護学生の実習受け入れを行っていたが、コロナ禍で現在はできていない。落ち着けば再開を検討している。数日後に同法人の有料老人ホームでピアノコンサートが開催されるので参加を予定している。コロナ対策が緩和されたら様々な行事再開を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会では地域の区長がメンバーに入ってもらい、意見交換の場を設けている。家人にはグループホーム便りを送付し、利用者情報を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者情報だけでなくヒヤリハット事例も報告し助言を頂く機会としている。市の高齢者福祉課からは介護状況の情報提供も受けており他施設での参考にできる取り組み等は自施設でも行うようにしている。議事録を掲示するだけでなくメンバーからの意見を他職員へ伝えサービス向上につなげている	現在は事業所で会議を開催できており、連絡網はネットで行っている。議事録は委員の意見、提案が丁寧に記載され、議事録を用いて職員にも伝達されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会では意見交換をしている。また、介護保険認定調査への協力や認定調査の資料提供にて市役所へ訪問している。	運営推進会議には高齢者福祉課より毎回出席があり意見や情報をもたらしている。市には直接行くことも多く、話しやすい環境ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基本的な考え方ができるように研修を行っている。カンファレンスだけでなく申し送り等、転倒や滑落の危険性がある利用者に対して拘束せずに見守りが出来るテーブル席の検討をしている拘束が発生した場合2週間に1度アセスメントを行い主治医に報告、署名してもらい家人へ説明後署名頂いている。拘束があった場合は拘束解除に取り組んでいる	拘束及び虐待については年2回研修を実施し、職員間での話し合いを行っている。センサーマットを利用しているが、特に夜間のトイレ利用時に動きを察知し促しと安全のための設置で、拘束ではないと捉えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待となるのかを、職員同士でカンファレンス等で、検討している。特に気づきにくい「スピーチロック」についても話し合いを設けている。言葉使いや声のトーン、語尾の使い方言葉の虐待にならないように気を付けている。虐待防止の研修会へ参加した職員は研修報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対する制度は虐待と同様に研修会を行っている。現在の利用者の中で後見人制度を利用している方がおられるため円滑に活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には契約の時間を設け契約書を読み上げながら内容の説明、利用料金だけでなくケアの取り組み等を説明し等を理解を頂けるようにしている。質問事項で即決できない時にはホーム長などに確認し早めに家人へ報告している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナの影響で面会回数は減っているが電話などで家人へ状況報告や要望を聞く機会を設けている。家人からの意見はカンファレンス等で話しあひ施設として取り組んでいる。家族会では家族同士の意見交換の場としている	ケアプラン作成時には家族の意見、要望を聴いている。窓越しの面会ではあるが、職員が必ず意見を聴くようにしてプランに活かすようにしている。また、毎月の請求書には便りを入れ、近況報告など情報の提供を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている管理者会議では各施設からのヒヤリハット報告や行事予定だけでなく、ホーム長も参加し施設間の取り組み等でアドバイスをもらっている。法人内他施設での取り組みが自施設で活かせるものはないかも職員間で検討している	月に1回、職員会議と管理者会議を実施しているが院長も出席する。毎木曜日にはカンファレンスを行う。今年度から個別面談も実施している。研修や資格取得の希望者には勤務扱いで費用も出る。現在、資格取得のための進学コースに1名行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得者には資格手当で反映している。外部での研修では時間内で勤務扱いとし参加費用も施設で補い参加できる支援をしている。また労働時間(パート勤務)の希望を聞いてくれたりする事で、やりがいを持って働くことが出来ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会に職員参加できるようにしている。受講で終わり、でなくカンファレンス等で研修報告を行い他職員への伝達を行っている。また新任職員には指導者うつけ技術だけでなくメンタル面もフォローできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県グループホーム協会の会員で研修に参加し交流する機会を設けている。認知症実践者研修、認知症管理者研修にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前に本人の意向や職員ができることを話し合い、どのサービスが必要なのかを検討し気持ちよく日常生活を過ごせるようお手伝いをさせてもらっている。会話の中から本心が聞き取れる事もあるのでゆっくりと会話するよう心掛けている。入居してからすぐの会話から聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能であれば本人や家族と面会をし要望を聞くようにしている。またホームの生活を見学してもらうことで事業所に対応できることを伝えるようにしている。また面会や電話で本人状態等を伝えるようにし、入居翌日には家人へ夜間帯の様子を電話で伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の実状や要望を把握し何が必要なのかを見極めるようにしている。事業所内での対応が困難な時には他のサービス機関と連携をとり、改善に向けた支援提案を行い、困りごとがあれば優先順位を付け対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をするときには利用者への声掛けを第一に、目線を合わせるようにしている。壁画の作成や洗濯物たたみ等を利用者と一緒に行い日常生活の中で役割を持ってもらうように又、TVや新聞を見ながら利用者と一緒にみていることを意識した会話をするように心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話で日常生活の様子を伝えている。本人の要望で購入品の依頼をすることもある。また家族を支える関係づくりをめざし家族からの情報提供もいただくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により外出には制限があるが子供のころからなじんできたひな祭り、七夕等の季節の行事や食事などの工夫をし、楽しんでもらっている。	現在も面会は窓越しで実施している。訪問理容も親子で来てくれており、馴染みの関係ができていく。いろいろな行事はまだ再開していないが、事業所は通りに面し通学路や散歩道になっているのでベンチで外気浴をしたり、学生や地域の人に手を振ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お誕生日会では他者への、お祝いを言って下さったり毎日のレクでは助け合ったりする姿が見られている。また、困っている利用者に声をかけてくれたり職員へ伝達してくれたり利用者を利用者を支えている場面を目にする事もあり利用者同士の関係も深まっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、お見舞いへ行くようにしている。また逝去された時には葬儀へ参列し、家族のグリーフケアを行うようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やケア時に利用者の思いや希望等をくみ取るようにしている。うまく言葉にできない利用者に対しては行動や状況から把握し職員間で検討、支援を行っている。得た情報は職員間で共有し反映できるかの検討をしている	日々の関わりの中で言葉に表せない人は動きや表情で本人の思いを把握している。入浴時は相對しての話やつぶやきなどを記録に残し、職員間で共有し日常の業務に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや本人、ご家族から得た情報は職員間で把握しサービスへと繋げている。また日々の会話の中だけでなく昔の事を聞いて懐かしんだりすることから情報を得ることもあるので職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に役割や生きがいを見つけ充実した日々を過ごせるよう支援している。本人の残存機能を活かした生活が送れるよう職員間で取り組んでいる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を普段から大切にしているがカンファレンス等で主治医や看護師に参加してもらい意見を伺っている。身体、生活状況等を含めた情報をケアマネに提供しプランに反映している	担当制を設け、身体状況や思いを把握し、職員間で共有している。家族及び本人の意向を大切にしながら、主治医、看護師も参加して話し合いを行っている。情報をケアマネジャーに提供し、ケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の期間に応じて見直しを行っているまた毎日の生活で変化を見逃さない様、利用者の状況に応じや対応ができるよう個人記録に残し、申し送り共有。疑問や介護をする中で不安なことは都度確認できるようにし、皆で意見を出し合い介助方法の見直しをするようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当該医療法人の主治医による月2回の定期受診を行っており、体調の変化時には相談することで早期の対応ができています。家族状況に応じて通院や受診支援や家族の依頼で介護保険の代行申請も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響により外部との接触は限られているがなじみのある理髪店の来所で散髪してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院併設のホームではあるが利用契約時に希望する「かかりつけ医」に継続して受診できることを説明し受診支援を行っている。他病院受診時には基本的に家族同行井としているが不可能な場合は職員同行し情報共有している	利用開始時に現在のかかりつけ医を継続できることを説明している。月2回の訪問診療があるが、1名づつ診られるので毎日訪問があり安心につながっている。基本的に専門医の受信は家族対応となっているが、都合の悪いときは職員が受診の支援を行い、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医院と連携を常に行い利用者の状況報告を行っている。個々の利用者が適切な受審や看護を受けられるよう支援している。状態変化有れば医院へ報告し指示を受け早期に対応するよう心掛けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は日常生活の情報共有を行い環境変化で混乱しない様支援している。退院する日程が決まると入院先に出向き情報収集や主治医の指示が仰げるようにしている。入院時と身体状況の変化有る場合は居室の環境整備の見直しもしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に終末期の要望を、尋ねているが、いつでも変更可能なことを説明している。状況に応じ説明し、どのように過ごすか話し合っている。本人様がそのような状態になった時には安楽な姿勢をベッド上で保ち必要時は法人内の医院へ連絡している	利用開始時に重症化及び看取りの説明を行い、状態変化に応じてその都度話し合い、家族の希望で看取りを行っている。法人の病院が近いのと事業所内に看護師がいることで家族及び職員の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者に突発的なことがある事を理解し緊急時に備えての訓練や初期手当の方法をカンファレンス等を利用し学ぶ機会にしている。高齢者特有の疾患に加え認知症の観点から医師、看護師からアドバイスをもらっている。入居者がけがをってしまった場合、看護師来所までの傷の初期手当方法も教えてもらっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。訓練時には要綱を再度見直し訓練にあっている。また緊急連絡網の訓練も適宜行い法人内での災害時に協力体制ができるようにしている	年2回、火災と地震を想定した避難訓練を実施している。そのうち1回は消防署立ち合いで実施し、日中、夜間を想定し利用者も一緒に行っている。法人と協力した緊急連絡網の訓練も行っている。備蓄は事業所内に2日分あり、あとは法人にも備蓄している。消防署が近く連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護と共にプライバシーの保護や高齢者の自尊心についての研修を行っている。声掛け時には視線を合わせるだけでなく個人に合わせた対応をしている。排泄や入浴介助ではプライバシーを損なわない様、目隠しカーテンを使用している。	プライバシー保護については研修計画を立て定期的に職員間での話し合いを実施している。また、各自で日頃思っていること、していることを書いてそれを資料とし勉強会をするなど、個々の尊厳とプライバシーの確保を意識した取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で個人の思いや希望を聞き自己決定できるよう働きかけている。わかりやすい話し方の努力や表現の観察を行っている。レク等を行う際、やりたいゲームやや歌いたい歌を選んでもらったりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが個人のペースに合わせ対応している。希望があれば入浴日の変更、体調や気分次第で主食を粥で提供したりしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の起床時の整容だけでなく馴染みある理髪店の来所で散髪してもらっている。自分で訴えることのできない利用者の衣服汚染があった場合は声をかけ更衣介助している。また季節にあった衣類を選び着衣してもらったりホーム内で洗濯をし、毎日きれいな衣服で過ごしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告を見て「これが安い」「旬の食べ物やな」と食べるだけでなくスーパーでの買い物風景だったり主婦だった時の役割を感じてもらっている。1口でも多く食べてもらえるよう食事前の口腔体操で食べることを意識してもらい嗜好調査をし「好きなものが食べれる」といった楽しみを持ってもらっている	食事は法人からの献立に基づいて事業所内で作るため、調理の音や香りで食欲がそそられ、ほとんど完食している。おやつもほとんど手作りで行事食も工夫されており、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎日チェック表に記載し職員間で情報共有している。水分は本人の好きなものに変えたり飲み込みの悪い方には工夫して少しでも経口摂取できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けで口腔ケアを行っている。利用者の状況に合わせて歯ブラシだけでなくスポンジブラシ、ガーゼ等を使用している。義歯は夜間は職員が預かり洗浄剤を用いて消毒を行い週に1回はケア用品の消毒をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室ごとにトイレを整備している。夜間はオムツ対応でも日中はトイレ介助している方も居る。排泄表を利用し訴えが出来ない方でも時間を見て支援することで皮膚トラブルも防ぐことが出来ている	居室にトイレがあるので、個々のパターンを把握し、声かけで誘導し、できるだけ自分の力で座ることができるよう支援している。夜間は3時間おきにパット交換を行い、睡眠が十分とれるよう配慮して支援している。パット使用の人も現在は布パンツになるなど、排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し職員間でパターンを共有。食事季節の野菜を多く取り入れ水分補給を重視。身体を体操等で動かしたりすることで排便に繋がる事を本人に伝え支援している。下剤服用時は申し送り共有している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調等にもよるが週2回、入浴の確保している。体調が思わしくないときには清拭や部分浴を行い個別支援をしている。季節にあった入浴剤を使用したり、本人好みの湯音で入浴してもらう事でリラックスしてもらうよう心掛けている。排泄後は陰部洗浄も行っている	基本的に週2回入浴である。1人ずつの個別入浴で職員と話しながらゆっくりと楽しんで入浴できるように入浴剤を入れたりしている。重度介護の人も浴室で掛け湯、シャワー浴を職員が複数体制で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠が十分にとれていない方には昼寝等で個別に休憩が撮れるよう支援している。日中は生活リズムを整えるよう努めている。室温や寝具調整で安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容が分かるよう処方箋ファイルを作成している。変更や中止、医師の指示等があった場合は個人記録に記載し申し送りで伝達している。薬剤師訪問が月2回あり内服に関する注意事項や指導を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や行事を行う際、利用者の嗜好や希望を聞いている。集団レクでは利用者が得意なことを見極め日々の、手作業につなげている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で外出はできないが、窓から外を見たり外気に触れることはできている。ゴミだし時車に同乗し少しだけだが外出気分を味わってもらっている	外出に制限のある中、事業所前のベンチでアイスクリームを食べたり、日向ぼっこをしている。ゴミを法人へ運ぶ際に利用者も一緒に外出したり、受診の際に河原の彼岸花を見に行ったりと近場で外出支援につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活していく中で必要なものは家族からの預かり金を貰い受け購入している。金銭収支管理票を作成し家族からサインをもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設に電話がかかってくれば生活状況を伝えたり会話できる方であれば本人に代わり通話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と同空間提供を心がけている。職員が調理する姿が見えることや季節の花を飾ったりすることで居心地の良い環境づくりに心がけている。毎月の壁画作成では利用者も一緒に行い季節感を味わってもらっている	毎月、皆で作った作品を壁面に飾っている。作ることで、飾ることで職員と利用者の会話につながる。快適な室温、明るさに努め、安全な歩行にも配慮されている。また、事業所内で調理するため、五感も刺激され、居心地よく過ごせるような環境整備、配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは混乱しない様定位置を決めている。利用者同士、会話ができるようにしている。聞こえづらいようであれば職員が伝達している。他の利用者が困っている時に手伝いをしてくれる姿が見られることがある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には使い慣れたものを持ち込める。ベッドの向きは利用者自身で変えることもできる。歩行できる方の居室は動線上に置く原因(コード等)となるものを置かない工夫もしている	馴染みの家具や小物が持ち込まれている。どうしても家ではないのに家のものがあるのかと疑問を持つ利用者もいるが落ち着けるように物品や飾りを考慮している。誕生日の記念品や花の好きな人などは居室に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や廊下に手すりをつけ安全に歩行できるようにしている。廊下は車いす同士がすれ違っても安全に歩行できる幅が十分にある。また居室入口には名前を大きく貼ってある為「自分の部屋」を認識してもらっている		